

第 1 回検討委員会におけるキーワードを整理しました。

## ◆◆◆プラン全体へのキーワード◆◆◆

- ・市民目線の言葉で、わかりやすい、特徴的な言葉で書いたほうが良い。
- ・市民目線の言葉として、サブタイトルや説明文の中にわかりやすいキーワードがあると良い。
- ・市民に見てもらえるプランにするのが大事であり、文章の羅列ではなく、イラスト、色使い、デザインを考えると良い。
- ・市民を含めたステークホルダーにとって、自分事と考えられる計画にすると良い。
- ・ステークホルダー全員がプランを身近に感じる仕掛けづくりを考える。例えば、QRコードが街中あちこちに掲げ、市民が思った時にすぐに確認できる環境にする。
- ・このようなプランの中に「陶磁器」という言葉が出てこなくなってきた印象がある。やっぱり、外から見ると瀬戸のイメージは「陶磁器」がすごく強いのでプランの中に盛り込むと良い。
- ・パブリックコメントは、市民から意見がもらいやすい工夫を考えてほしい。
- ・一つでも二つでも、この場合はこちらを優先する事がわかれば、より実効性に富んだプランとなる。
- ・優先順位を決める際、オリジナリティという軸があったほうが良い。
- ・今後、施策の優先順位をつけることが我々のミッションの一つとなる。

## ◆◆◆基本目標とサブタイトル◆◆◆

- 1 まちの活性化 ~○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○~
- 2 生活の利便性向上 ~○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○~
- 3 ICT 基盤の強化 ~○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○~
- 4 スマート自治体の実現 ~○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○~

## ◆◆◆目指す姿へのキーワード◆◆◆

- 1 まちの活性化
  - ・小学生向け Seto CG Kid's Program は突出した一つの事例である。
  - ・新しい小中一貫校、特別支援学校もあり、他市町から入ってくる人を呼び込む機会である。
  - ・小中一貫校は瀬戸市として目玉になるが、リタイアされた方がどう学校教育に関わってもらえるかが重要と思う。
  - ・「まちの活性化」という言葉も「にぎわう街づくり」といった少しやさしい言葉で表現したほうが良い。

## 2 生活の利便性向上

- ・人と社会といった、いわゆる生活者目線で温かみのある ICT プランを立案する。
- ・人にやさしいシステム、人のためになるシステムにつなげることが大事である。
- ・少子化により子育て世代、親世代が時間とお金を使う。その際、魅力的な瀬戸市の一つのツールになるように ICT をどう活用するかが大事である。
- ・子どもたちは、ICT を学習するのが早いですが、まわりの高齢者、先生にどう活用してもらおう事が大事である。
- ・子育てがはじまり、瀬戸市の保育園、病院、せとまちナビを使って、快適に生活できている。
- ・高齢者に ICT の使い方を指導するときは、難しい言葉をわかりやすい日本語に置き換えて伝えると良い。
- ・高齢者には、生活の中で ICT がこんなに便利だという事を伝えることが大事である。
- ・ICT の力で障害が重い子でも会話ができる。
- ・障害のある子だけでなく、引きこもりの子、子育てが忙しくて仕事ができない方を支援する仕組みがあると良い。

## 3 ICT 基盤の強化

- ・子育て情報をチャットボットで情報共有する取り組みが行われている。子育てをされている皆さんの生の声が市役所内に届き、ビックデータになり得る。
- ・瀬戸市にも ICT に長けた先生がおり、その学校だけでなく、瀬戸市のデータベースの中に置いて、どこの学校からも引き出して使える仕組みがあると良い。
- ・基礎的な予算整理は必要だが、大事なものはコンテンツであり、良質なコンテンツをしっかりと貯めて、共有することが大事と思う。
- ・一旦今回、例えばギガスクールで導入したら、年間維持コストは、どんどん下がっていくであろう。
- ・携帯キャリアの価格もどんどん下がっており、価格破壊が起こり始めている。

## 4 スマート自治体の実現

- ・開かれた自治体にするにはどうすれば良いのかを考える。
- ・ICT プランを実行していくためのある種の覚悟みたいなものが大事になる。
- ・利便性を損なわないセキュリティの強化という観点で考える。
- ・利便性とセキュリティはトレードオフと言われるが、両立が大切である。